

万華鏡

野口珠菜

きらきらした白い筒

三枚の鏡板

ビーズ一杯

赤い丸

金色の縦長

そこに

硝子のいし

つめて蓋して

覗き込む

まわしてもまわしても

新しい

目まぐるしい万華鏡

金色の六角^{ろっかく}

赤が似合う花

いまは青空のいし

変わる景色

ふふふふ

あ、ゴツリ

まわるまわる

土の上

ひろってぬぐっても

とれない茶色

気づかない間に

うす汚れた万華鏡

あれ？

なくなった？

そこにあつたいし

まわしてもまわしても

見当たらない

どこにいったの？

蓋をあける

ビーズはあるのに

いしはない

代わりにあつた

たくさんの透明

触れば痛い

危険な万華鏡

それでも蓋して

まわすまわす

捨てればいいのに

それを覗く

あれ？

こんなのいれたつけ

たくさんの虹

目を奪われる

ああ、そうか

変わらずあつた

無数のいし

最高ね